

溶血性尿毒症症候群（HUS）

溶血性尿毒症症候群（hemolytic uremic syndrome: HUS）は、細い血管が傷害され、血小板が塊を作り血栓が生じることにより血小板が減少し（血小板減少症： $<150,000/\mu\text{l}$ ）、血栓により赤血球が壊れて貧血となり（溶血性貧血：Hb 10g/dl 以下）、腎臓の細い血管内にも血栓が生じて腎臓が傷害される（急性腎傷害：年齢・性別による血清クレアチニン基準値の 1.5 倍以上の上昇）病気です。

HUS は、志賀毒素を産生する腸管出血性大腸菌（entero-hemorrhagic *Escherichia coli*: EHEC）O157 などの感染をきっかけに、志賀毒素によって血管が傷害されて発症します。EHEC 感染症では、全員ではありませんが、下痢の出現後に HUS の徴候が出現し、腎臓の傷害が強い場合には、むくみや尿量の減少、食欲低下などの尿毒症症状を呈する場合があります。そのほか、意識障害や痙攣など中枢神経症状を呈する場合もあります。

HUS に対する治療として、輸液および必要に応じて輸血、降圧治療が行われます。急性腎不全となった場合には透析療法が必要となることもあります。脳症を合併した場合には特殊治療として、血漿交換やステロイド薬などの抗炎症治療薬の使用が考慮されます。